

「TOMODACHI アフラック プログラム」第3回米国派遣医師を決定

～ 小児がん研究に携わる医師の米国留学助成制度として ～

アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社、日本における代表者・社長：山内 裕司）はこのたび、日米の次世代のリーダーの育成を目指す官民パートナーシップ「TOMODACHI イニシアチブ」（<http://tomodachi.org>）の一環として展開する米国留学助成制度「TOMODACHI アフラック プログラム」において、第3回の米国への派遣医師を社会医療法人北楡会の佐野弘純氏に決定しました。

佐野氏は2015年8月から2016年1月の半年間、Aflac 米国本社が支援する「アフラックがん・血液病センター」（米国ジョージア州アトランタ）に留学し、同センターが実施するプログラムの研修に取り組みます。なお、アフラックは佐野氏に対して奨学助成を行います。

◆佐野弘純氏 略歴



社会医療法人北楡会 札幌北楡病院小児思春期科医長。2001年3月に滋賀医科大学医学部小児科を卒業後、大阪大学医学部附属病院、ベルランド総合病院、埼玉県済生会川口総合病院の小児科に勤務したのち、2007年より群馬県立小児医療センター血液腫瘍科にて小児血液・がん疾患の診療及び研究に従事。2010年9月より社会医療法人北楡会 札幌北楡病院小児思春期科医員となり、2012年4月からは現職として造血幹細胞移植を含む小児血液・腫瘍性疾患の診療に従事している。

～佐野氏のコメント～

「米国での小児血液・腫瘍性疾患の診療を学ぶことのできる貴重な機会をいただき、とても感謝しております。また同時に、その責任の大きさを痛感しています。小児がんの治療成績の向上は目覚ましいものがありますが、いまだに多くの子どもたちが小児がんに苦しんでいます。私は『TOMODACHI アフラックプログラム』への参加を通して、少しでも多くの小児がんに苦しむ子どもたちの役に立つよう、また日米両国の小児がん診療の交流に役立つよう努力していきたいと考えております」

◆＜TOMODACHI アフラック プログラム＞概要

【TOMODACHI イニシアチブとは？】

東日本大震災後の復興支援から生まれた活動で、教育、文化交流、リーダーシップなどのプログラムを通して、日米の次世代のリーダーの育成を目指す『公益財団法人 米日カウンスルジャパン』と東京の米国大使館が主導する官民パートナーシップです。日米関係の強化に深く関わり、互いの文化や国を理解し、より協動的で繁栄した安全な世界への貢献と、そうした世界での成功に必要な世界中で通用する技能と国際的な視点を備えた日米の若いリーダーである「TOMODACHI 世代」の育成を目指しています。

【TOMODACHI アフラック プログラム（第3回）】

目的	米国における最先端の小児がん研究の経験を通じ、日本での治療・研究に役立てる
対象者	小児がんの基礎、診断、治療等の研究に携わる日本在住の医師（40歳未満）
派遣期間	2015年8月～2016年1月

※ 派遣医師の選考については、「日本小児血液・がん学会」の協力のもと、「TOMODACHI アフラック プログラム」選考委員会（委員長：堀部敬三氏）で行っています。

※ 本プログラムの事務局は、認定 NPO 法人ゴールドリボン・ネットワーク（東京都新宿区下落合 3-12-32 目白セクエン ツァ F/03-3952-2640）が務めています。